

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属中学校

校長 平岡 伸一郎

2019年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2019年度のアンケート結果を踏まえて、以下その分析をしていきます。なお、本校では2018年度より生徒募集を停止したため、1、2年生の生徒が在籍しておらず、アンケートは3年生のみとなっています。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、今後の授業の改善に役立てるようにします。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果の全体的な特徴として、すべての質問項目に対して、肯定的な回答が高い数字を示しています。アンケート結果が3年生のみで比較対象がありませんが、例年、アンケートは1月下旬に実施しており、3年生は高校受験を間近に控え、学習へのモチベーションが高まっているため、アンケートの各質問項目に対し、低学年より肯定的な回答が高い傾向を示します。また、この学年の生徒は在籍生徒数が1クラス17名と少数でありながら、昨年度から英語、数学などの学力差がつきやすい科目については、習熟度別の分割授業を展開していたため、2年次より質問項目に対し、肯定的な数字が高かったのですが、本年度はさらに昨年度を上回る数字を示しています。少人数教育の恩恵を受けた結果かと思われます。

次にアンケートの各質問項目で特徴的なものについてみていきます。

④「授業は分かりやすいですか」の質問に、82%の生徒が「分かりやすい」と回答しています。また、⑦「授業は、先生の問題に答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問に85%の生徒が「参加しやすい」とやはり回答の数字は高くなっています。生徒一人当たりに対する教員からの問いかけや働きかけの回数が多くなるので、生徒の授業への参加意識が高くなっているからだと思われます。また、積極的に授業に参加することによって、授業の理解度も深まっていることがうかがえます。

⑨「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」と⑩「授業を受けて、学力がついたと思いますか」の質問にも、それぞれ「興味が深まったと思う」、「学力がついたと思う」と回答した生徒が6割を超えているのは、やはり授業に参加しやすい雰囲気によって、生徒の授業に対する集中力が高まった結果だと考えられます。⑭「この教科の内容は理解できますか」の質問に対しても、87%の生徒が「理解できる」、「だいたい理解できる」と回答していますが、⑮「この教科の勉強を日常していますか」の質問に対する「毎日している」「ときどきしている」の回答の数字がもっと上昇すれば、さら

に教科の内容が「理解できる」と回答する数値は上昇すると思います。

われわれも生徒たちが正しい学習習慣を身につけるように、適切な課題を課す必要があります。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

高校生対象の授業アンケートと比較すると特に目をひくのが、⑧「授業中にほめられることがある」の質問に対し、全員が「よくほめられる」「たまに、ほめられることがある」のどちらかに回答しています。また、⑨「授業に積極的に参加している」に対しても全員が、「積極的に参加している」「どちらかという」と、積極的に参加している」のどちらかと回答しています。生徒は教員によくほめられるので、積極的に参加しようと思ひ、教員は生徒が学習に対する意欲を示してくれるので、ほめてあげたいという気持ちが起こるといふ相乗効果を引き起こしていると考えられます。ここにも少人数教育の良さが表出しています。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

⑲「この学校の生徒は、遅刻しないように努力している」⑳「この学校は、生徒が清掃にしっかり取り組んでいる」の質問に対しては、他の質問項目より若干否定的な回答を示していますが、相対的に肯定的な数字を示しています。特に㉑「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」という質問では「よくあてはまる」が82%、「ややあてはまる」も含めると全員がそう回答しています。生徒たちは入学当初は年相応の精神的幼さが残っていましたが、学年を追うごとに精神的な成長を感じさせ、いつしか教員から見てもしっかりした挨拶ができるようになっていました。そうした内面の充実ぶりを自己評価した結果と思います。

㉒「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」の質問に対しても「よくあてはまる」65%、「ややあてはまる」35%と回答しています。この学年の卒業をもって本校は閉校するため、生徒総数が17名と少なく各学校行事の実施もかなり困難だったのですが、中学教員団が生徒たちに寂しい思いはさせたくないといふ知恵を絞って、学校行事を企画しました。そうした教員の努力が生徒にも伝わり、学校生活への参加意欲を高めた結果がこの数字に表れているのだと思います。